

表7 アカマツ林の組成 (檜村 1974 より改変)

林床型	ヤマボウシ	ヤマツツジ	バイカツツジ	ツタウルシ
調査林分数	6	15	4	3
高木層				
ミズナラ	II 1	I 1	・	・
コナラ	III 2	II +	II +	・
アカマツ	V 4	V 4	V 4	V 4
亜高木層				
ウラジロノキ	II 1	I 1	・	・
アカシデ	II 1	II +	・	・
ネジキ	I +	II 1	・	・
タマシデ	III 1	・	III +	・
アオハダ	I +	II 1	II +	・
コバノトネリコ	III 1	III 1	III +	・
コナラ	III 2	III 1	V 1	II 1
リュウブ	III 1	IV 2	V 1	IV 1
ホウノキ	I +	・	IV +	・
ミズナラ	II 1	II 1	III 1	III +
ヤマウルシ	II +	III 1	・	IV 2
低木層				
ヤマボウシ	III 2	・	・	・
ミズナラ	IV +	I +	・	・
コメウツギ	III 1	I +	・	・
コシアブラ	II +	I +	・	・
ツクバネウツギ	III 1	・	II +	・
ヤマウルシ	IV 1	III 1	・	II 1
ヤマツツジ	I +	III 1	II +	II +
アセビ	・	II 1	・	・
クロモジ	IV 1	III 1	V 2	・
リュウブ	I +	I +	IV 1	II 1
マンサク	I 1	I +	IV 1	・
ホツツジ	・	II +	IV 1	・
バイカツツジ	・	・	IV 1	・
シラキ	・	I +	III +	II +
ミツバアケビ	・	・	III +	II 1
草本層				
ガマズミ	II 1	I +	II +	II +
ミツバアケビ	II 1	II 1	・	II 1
チゴユリ	IV 2	II 1	V 2	II 1
ヤマツツジ	I +	IV 2	II 1	・
シンガシラ	I +	I +	IV 1	・
オヤリハグマ	II 1	I +	III 1	・
モミジハグマ	II +	I +	V 1	・
アクシバ	I +	II 1	V 1	・
ショウジョウバカマ	・	I +	IV 1	・
イヌツゲ	・	II 1	III 1	II 1
ヒカゲスゲ	I 1	I +	III 1	II 1
アキノキリンソウ	I 1	I +	III +	IV 1
ツタウルシ	I +	I 1	II +	V 1

豊山塊は充分亜高山帯に達する高さをもつにもかかわらず、アオモリトドマツの成林どころか、アオモリトドマツ単木の成育もみられない。アオモリトドマツは雪の深い山岳ほど成長がわるく(斎藤 1974)、飯豊山のような日本海に面する第一線の高山ではアオモリトドマツの成育をみないか、成林するとしても叢林状の小規模な林分をみるに過ぎない(鈴木 1952, 石塚ほか 1975)。吾妻山—飯豊山のラインでみると、最西端のアオモリトドマツ林分は梅ヶ峯の山頂(熱塩加納村)にあり、福島県自然環境保全地域として保護されている。

亜高山帯針葉樹林の主役は、福島県域の山岳の場合、アオモリトドマツである。なお、亜高山帯下部ではコメツガ、キタゴヨウ、クロベなども混じる。また、燧ヶ岳一帯の平坦地ではトウヒも混じる。さらに特筆されるべきこととしては、東吾妻山と高山の間の鞍部に当る鳥子平周辺にはシラビソも混じる。シラビソは中部山地では亜高山帯針葉樹林の主要樹種の一つであるが、東北地方ではこの鳥子平にみられるだけであり、シラビソ分布の北限として注目される。シラビソはアオモリトドマ